

地域を守るために

自主防災組織の活動

災害による被害を最小限におさえるには、まず自分と家族が無事であることが大切となります。それから地域住民が協力して火災の初期消火や、負傷者等の救出救護などを行うことが重要となります。そのために自主防災組織が必要となります。

この自主防災組織とは、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う団体のことをいい、さいたま市では自治会を単位として結成されています。日頃から防災知識の普及、地域の安全確認、防災資機材の備蓄、自主防災訓練などを行い、災害時には初期消火、救出救護、安否確認、炊き出しなどを地域で協力して行います。

●近隣と協力し救助活動

- 救助を求める通報を行う。
- 自主防災組織の活動に協力する。
- ラジオ等により情報を確認する。



●自主防災組織に協力し、秩序ある避難生活

- 助け合いの心を持ち、協力し合う。



●所定の場所に参集

- 情報班により地域内の被害情報を収集する。
- 消火班による初期消火活動を行う。
- 救出、救護班による救出活動を行う。
- 負傷者の応急救護、救護所への搬送を行う。
- 地域の事業所の協力を得る。
- 困難な場合は消防署等へ要請する。

●市と協力し避難所の運営

- 秩序ある避難所の運営を行う。
- 住民どうしの役割分担、要配慮者に対する配慮。



要配慮者への協力

●高齢者・乳幼児・傷病者・外国人の方には

高齢者や乳幼児は、手をつなく、背負うなどしてしっかり援護します。傷病者には複数の人で対応しましょう。急を要するときはひも等を使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。

外国人の方で言葉が通じない場合には、声をかけて身振り手振りを交えて誘導します。



●からだの不自由な人には

それぞれの人に適した誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、必ず複数人で協力し、階段を上がる時は前向きに、下がる時は後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮しましょう。



●目の不自由な人には

「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけましょう。話しかける相手の声が頼りなので、話すときは、はっきりゆっくり、大きな声で、誘導するときは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕をかけて、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。



●耳の不自由な人には

話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、手のひらに書く、身ぶりなどで分かりやすく内容を伝えましょう。また、携帯電話やスマートフォンの文字入力も有効です。

